特別号

世界遺産ニュース

明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域 紹介編

2014年 7月

発行：長崎県教育委員会

見に行こう♪ これからの世界遺産を!

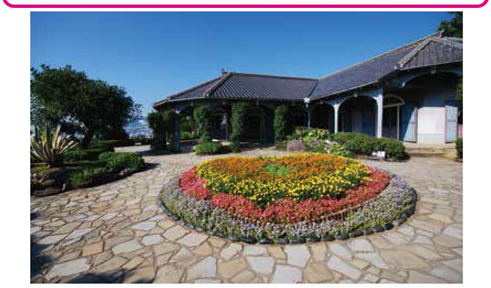
世界遺産登録を目指す、県内にある構成資産を紹介していきます！

案内担当の美龍です♪

「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」とは…

日本が西洋の技術を取り入れながら、国内の重工業（造船、製鉄・鉄鋼、石炭産業）を発展させた、江戸末期から明治時代の歴史を示す重要な施設や設備です。
九州、山口を中心に、全国で8県23ヶ所が「世界文化遺産」としてユネスコに推薦されました。そのうち、8ヶ所が長崎市にあります。

①旧グラバー住宅 国指定重要文化財



長崎市南山手町

［1863年（江戸末期）建設］

スコットランド（イギリス）から日本に来た、トーマス・グラバーは、江戸末期から明治時代にかけて活躍した人物です。②の高島炭坑や④の小菅修船場の建設にも協力しました。
日本と西洋の文化の交流の場となっていたのが、この旧グラバー住宅です。

②高島炭坑（北渓井坑跡）

長崎市高島町

［1869年（明治2年）開坑］

日本の炭坑で初めて、蒸気の力で動く、西洋の機械が導入されました。
写真は、当時、石炭を運び出していた穴の跡です。

日本の石炭産業の原点がここにあるんだよ☆国指定史跡になることになったよ！

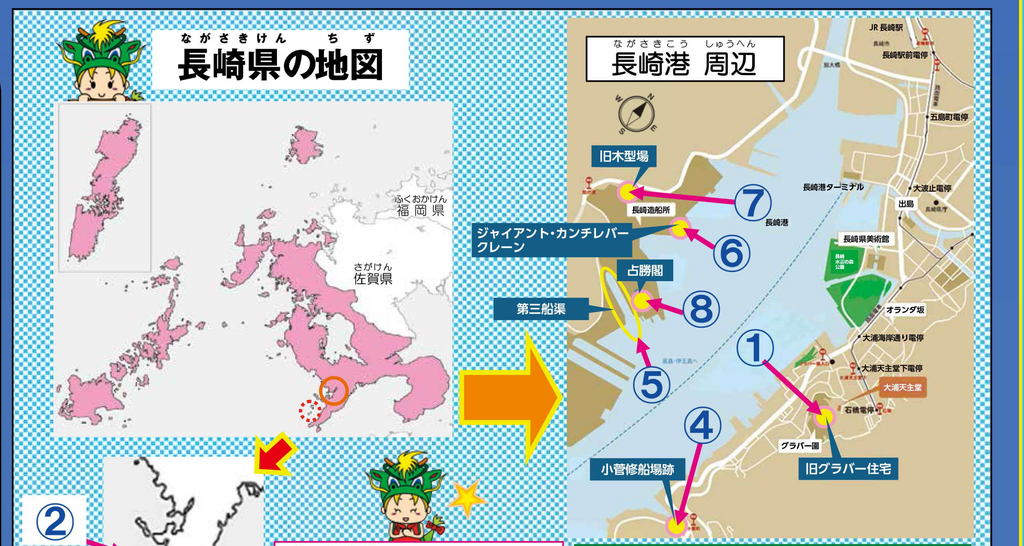
③端島炭坑 通称「軍艦島」

国指定史跡になることになったよ！

長崎市高島町

［1890年（明治23年）本格的に操業開始］

当時、重要なエネルギー資源だった石炭を掘るため、電気機械を取り入れるなど、②の高島炭坑の技術をさらに発展させ、海底の深い地層からより多くの石炭を掘り出しました。炭坑が閉じられた後、無人島になりましたが、島から石炭を産出した跡などが今も残されています。



地図上の①～⑧を、ひとつずつ紹介しています! 確認してみてね♪

公開されている場所もあるので、お休みの日や夏休みなどを利用してぜひ実際に行ってみてね♪

④小菅修船場跡 国指定史跡

長崎市小菅町

［1869年（明治2年）建設］

日本で初めて蒸気の力で船を引き上げる装置やレールを備えた、西洋式の船を修理する場所のことです。

かつて、船をのせて引き上げていた台の形が「そろばん」に似ていたことから、「ソロバンドック」とも呼ばれています。

⑤長崎造船所 第三船渠

長崎市飽の浦町 長崎造船所内

［1905年（明治38年）建設］

④の小菅修船場跡と同じく船を修理する場所ですが、こちらは大型用です。
海が満潮の時に船をこの中に入れ、海水を電動ポンプで排水して修理します。
排水のためのポンプは100年経った今も働いています。

（公開されていません。）

⑥長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン 国登録有形文化財

長崎市飽の浦町 長崎造船所内

［1909年（明治42年）建設］

日本で最初に建てられた電動のクレーンで、今も働いています。
遠くからその姿を見ることができます。見つけてみてね！

（公開されていません。）

⑦長崎造船所 旧木型場

長崎市飽の浦町 長崎造船所内

［1898年（明治31年）建設］

ここは、鉄製の船の部品を造るための木の模型をつくる工場でした。
現在は、長崎造船所の歴史を紹介する史料館です。

（※ 見学する場合は、事前に予約が必要です。）

⑧長崎造船所 占勝閣

長崎市飽の浦町 長崎造船所内

［1904年（明治37年）建設］

大切なお客様をおもてなしするための洋風の建物です。100年以上前に建てられたものですが、現在も完成した船のお祝いの会などに使われています。⑤の第三船渠を見下ろす丘の上にあります。

（公開されていません。）

「イコモス」がくるよ！

（正式名称）ＩＣＯＭＯＳ…国際記念物遺跡会議

各国から推薦された構成資産が、「世界遺産」としてふさわしいかどうか、実際に現地を訪れて調査する機関があります。それが、「**イコモス**」です！

今年の夏頃、「**イコモス**」が、いよいよ長崎を訪れます!

その時の調査を受けて、世界遺産に登録するかどうかをユネスコが決定します。

（※ ユネスコとは…国連で世界の教育、科学、文化に関わる機関のことです。）

☆注目☆

①～⑧には、蒸気の力で動く仕組みを備えている施設や、電気の力で動く仕組みの設備があったね♪

それぞれ説明文の中から見つけてみよう！